

## 6

### 贖罪(トゥルーエンド)

...ふん、起きたか。

イビキを立てて、ぐっすり仮眠してたぞ。

くすくす、だらしない。

ふわああああ...

ま、私もついさっきまで、お前の膝を枕代わりにして休んでいたところだ。

マゾの膝を枕にするのも、悪くはなかったぞ...くすくす。

(少し間)

しょっと。

冗談はここまでにして、1つだけ聞いて欲しいことがある。

さっそく起きたばかりで悪いが...お前が眠っている間、ある決断をした。

私自身の過去と、未練の話をしたい。

ふん、わざわざ理由を知りたいのか？

...理由は2つある。

お前が欲望に流されず、自分の未練に向き合った変わり者だったからだ。

それに、最後の最後には、私を性欲の対象としてではなく、1人の存在として見ていたのが伝わった。

性欲という強烈な欲望に惑わされず、私と対話しようとしたのは、お前が初めてだ。

くすくす...本当に変わった変態マゾだな。

ともかく、お前は信頼できそうな人間だ。

私も信頼の証として、過去をさらけ出すことにした。

聞いてくれ。

(少し間)

私の本名はレクナ。

子供の頃から、お前は暗いから、不気味だから、そんな理由だけで距離を置

かれ、生前には全く仲間が出来なかった。  
誰からも必要とされなかった。  
学校でも、家でも、どこにいてもこう言われた。  
お前はいつも目が死んでるし、何を考えてるか分らない。  
両親でさえ、暗い性格だった私を責めた。  
こんな暗い子に育てた覚えはない。  
お前は明るく社交的であるべきなんだって。  
だから、どこに行っても帰っても、そこには居場所がない。  
誰も私を受け入れようとはしない。  
この世界の醜い人間達のせいで、穏やかな心は奪われていった。  
(少し間)

私がどうやって死んだのかは思い出せないが、死の間際にこう思った。  
思い通りにできるような人形が欲しい。そうすれば私にも仲間ができる。  
身勝手に歪な願望だが、この世界ではそれが叶ってしまった。  
(少し間)

私はネクロマンサーになり、この牢獄で誰かに言われた使命を遂行してきた。  
相手の未練...生前の欲望を叶え、その代償として魂を吸収する。  
欲望に流され続けた人間は、3日目が終わる頃には完全に魂を奪われ、傀儡にされる。  
何度も何度も、お前のような人間をずっと傀儡にしてきた。  
(少し間)

だが、そんな人形を作っても、虚しいだけだった。  
意思がない相手を思うがままに操る。  
そんなことはただ虚しいだけで、数日も経たない内に飽きる。  
(少し間)

お前のおかげで気づかされたんだ。

自分のマゾ性癖と向き合って、こんなのは間違ってる、妄想は妄想であるべきだって気づけた、お前のおかげでな。

結局、私が本当に求めていたのは、傀儡なんかじゃない、1人の人間として、対等に接してくれる存在だった。

誰か1人でもいい。

ここにいていいんだよって、実際に口に出さなくてもいいから、そんな態度で接してくれる人間に救われたかったんだ。

くすくす、それがこんな変態マゾだとは思わなかったが。

ああ、ほんとに滑稽だな...くすくす...っぷっはは。

(少し間)

はあ、でも、お互い吹っ切れたな...くすくす。

でも、まだ全てが終わった訳じゃないぞ。

明日からどうなるか...考えていたか？

ふう、やっぱりお前も不安なんだな...。

本当に、どうなるか分からない。

◇「」を右耳に囁く

□服が密着する音(ごそごそ)

「正直、私も胸がそわそわする...。

お前が消えるんじゃないかって思うと、怖くなってきたんだ...。

はあ...これが冗談に思えるか？

からかうのはよしてくれ。

その...素直になるのは昔から苦手なんだ。

ふう、冗談を言いながら、マゾ性癖を弄ってた時とは訳が違うんだぞ...くすくす。

(少し間)

□指定箇所まで時計の針が動くSEを続ける

んう...もう明日が来るぞ。

よし、こうなれば仕方ない。

時計の針が重なるまでに、これだけは言わせてくれ。  
ん...その、これからはお前と一緒に過ごしたい。  
明日になっても、それからもお前が生きていれば...という前提だが。  
くすくす...ああ、勘違いはするな、マゾに恋愛感情を抱くはずがないから  
な。

お互いを尊重して生きるという意味だ。  
これからは傀儡ではなく、対等な関係として、一緒に生きていきたい。  
だから、もう二度とお前のマゾ性癖をかなえてやることはできない。  
恐らく、これ以上お前の望みを叶えてしまえば、傀儡になってしまうから  
な。  
(少し間)

おい、何を迷っている。  
お前は私と一緒に生きることよりも、このまま虚しく性を貪ることに執着する  
のか？  
ふん、そう言うと思った。  
こんな救いのない世界だが...私と一緒に生きてくれるか？  
ふん、一応言っておく...ありがとう。  
□時計の針が動くSEを終了  
□時計の針が重なる音(カチッ！)

□指定部分まで、建物が崩壊するような音を続ける

む、なんだ？牢獄がどんどん崩れて行って...。  
そうか...未練に隠された秘密。  
思い出した...どうすればこの未練から解放されるのか。  
ああ、聞いてくれ。  
誰が言っていたかは思い出せないが、この牢獄は未練という罪を背負った人  
間が囚われる不思議な場所だった。  
これは最初に説明したな。  
だが、未練を断ち切れれば罪そのものから解放される...。

お互いの未練がなくなった今、私達は牢獄から解き放たれたんだ…。

っ、なんだ…全身が光に包まれて…。

□建物が崩壊するSEを終了

□異空間に吸い込まれるようなSE

(しばらく間)

□風で草が揺れる音を最後まで続ける

□鳥のさえずりを最後まで続ける

それよりも、ここは…？

おはな…ばたけ？

う…太陽がまぶしい。

ん…でも、綺麗だ…。

(少し間)

ふう、助かった。

あそこに大きな木がある…とりあえず日陰で休もう。

□芝生を移動するSE(2人分の足音)

(少し間)

ん、ふああああ…にしても、不思議な気持ちだ。

それに…急に眠くなってきた。

ん、お前もか？

はあ…仕方ない、お互い横になろう。

◇ここから最後まで、右に囁く。

「ふう… 風が心地いい…す～は～す～は～

にしても、こんなことになるなんてな。

改めて、礼を言わせてくれ。

人を信じられなかった本当の未練、お前のおかげで乗り越えることが出来

た...。

ふん、あまり恥ずかしいことを言わせるな。

くすくす、何をニヤついてるんだ？

はあ、この調子なら、またお仕置きが必要だな。

ん...ちゅううう(右耳にキス)

くすくす...今のは不意打ちだ。

お前の魂じゃなく、心を奪ってやったぞ、くすくす...なんてな。

(少し間)

ふあああああ...もう限界だ...とりあえず寝よう...ん...くー...はー...ん...ふう...  
はー...ん...くう...はあ...んううう...むにゃむにゃ...」